

**プロジェクトマネジメント
(研修ロードマップ)**

**2004.8
経済産業省**

参考文献 : A Guide to the Project Management Body of Knowledge - 2000 Edition, Project Management Institute, Inc.


目次

1. 研修コース群(体系図) -----	2頁
2. 研修コース一覧 -----	7頁
3. 研修コースの内容 -----	12頁

プロジェクトマネジメント(システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション)の研修コース群(体系図)

	未経験 レベル	エントリレベル		ミドルレベル		ハイレベル			
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	
テクノロジー			システム設計	最新技術動向			コミュニティ 活動		
			システム構築	プロジェクト マネジメント 方法論					
			システム運用/保守						
メソドロジ				システム要件定義 技法	D O A 構造化手法				
				コンサルティング メソドロジ					
プロジェクト マネジメント			プロジェクト マネジメント 基礎	プロジェクト マネジメント 実践	コンプレックスマネジメント				
					品質マネジメント				
					リスクマネジメント				
					ファイナンシャル マネジメント				
					調達マネジメント				
					プロジェクトマネジメント の契約管理				
ビジネス/ インダストリ				プロジェクトマネジメント最新動向					
				インダストリアプリケーション動向					
				最新ビジネス動向					
パーソナル				プロジェクトマネジメントのリーダーシップ					
				プロジェクトマネジメントのコミュニケーション					
				プロジェクトマネジメントのネゴシエーション					


 : 職種共通

 : 専門分野別選択

プロジェクトマネジメント(アウトソーシング)の研修コース群(体系図)

	未経験 レベル	エントリレベル		ミドルレベル		ハイレベル			
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	
テクノロジー			システム設計 システム構築 システム運用/保守	最新技術動向		コミュニティ活動			
メソドロジ			システム要件定義 技法 コンサルティング メソドロジ	アウトソーシングプロジェクト マネジメントのための システム運用管理方法論					
プロジェクト マネジメント			プロジェクト マネジメント 基礎	プロジェクト マネジメント 実践	コンプレックスマネジメント 品質マネジメント リスクマネジメント ファイナンシャル マネジメント 調達マネジメント プロジェクトマネジメント の契約管理				アウトソーシング ビジネスの プロジェクト マネジメント
ビジネス/ インダストリ					プロジェクトマネジメント最新動向				
パーソナル					プロジェクトマネジメントのリーダーシップ プロジェクトマネジメントのコミュニケーション プロジェクトマネジメントのネゴシエーション				
					インダストリアプリケーション動向 最新ビジネス動向				


 : 職種共通

 : 専門分野別選択

プロジェクトマネジメント(ネットワークサービス)の研修コース群(体系図)


	未経験 レベル	エントリレベル		ミドルレベル		ハイレベル		
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7
テクノロジー			システム設計	最新技術動向			コミュニティ 活動	
			システム構築	プロジェクト マネジメント 方法論				
			システム運用/保守					
メソドロジ				システム要件定義 技法		ネットワーク プロジェクト マネジメント事例		
				コンサルティング メソドロジ				
プロジェクト マネジメント			プロジェクト マネジメント 基礎	プロジェクト マネジメント 実践	コンプレックスマネジメント			
					品質マネジメント			
					リスクマネジメント			
					ファイナンシャル マネジメント			
					調達マネジメント			
					プロジェクトマネジメント の契約管理			
ビジネス/ インダストリ				プロジェクトマネジメント最新動向				
				インダストリアプリケーション動向				
				最新ビジネス動向				
パーソナル				プロジェクトマネジメントのリーダーシップ				
				プロジェクトマネジメントのコミュニケーション				
				プロジェクトマネジメントのネットワーキング				


 : 職種共通

 : 専門分野別選択

プロジェクトマネジメント(eビジネスソリューション)の研修コース群(体系図)

	未経験 レベル	エントリレベル		ミドルレベル		ハイレベル			
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	
テクノロジー			システム設計	最新技術動向			コミュニティ 活動		
			システム構築			eビジネス ソリューション 開発方法論			
			システム運用/保守						
メソドロジ				システム要件定義 技法		eビジネス ソリューション プロジェクト マネジメント			
				コンサルティング メソドロジ					
プロジェクト マネジメント			プロジェクト マネジメント 基礎	プロジェクト マネジメント 実践	コンプレックスマネジメント			コミュニティ 活動	
					品質マネジメント				
					リスクマネジメント				
					ファイナンシャル マネジメント				
					調達マネジメント				
					プロジェクトマネジメント の契約管理				
ビジネス/ インダストリ					プロジェクトマネジメント最新動向				
					インダストリアプリケーション動向				
					最新ビジネス動向				
パーソナル				プロジェクトマネジメントのリーダーシップ					
				プロジェクトマネジメントのコミュニケーション					
				プロジェクトマネジメントのネットワーキング					


 : 職種共通

 : 専門分野別選択

プロジェクトマネジメント(ソフトウェア開発)の研修コース群(体系図)

	未経験 レベル	エントリレベル		ミドルレベル		ハイレベル		
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7
テクノロジー			システム設計	最新技術動向			コミュニティ 活動	
			システム構築	プロジェクト マネジメント 方法論				
			システム運用/保守					
メソドロジ				システム要件定義 技法		ソフトウェア開発 プロジェクト マネジメント		
				コンサルティング メソドロジ				
プロジェクト マネジメント			プロジェクト マネジメント 基礎	プロジェクト マネジメント 実践	コンプレックスマネジメント			
					品質マネジメント			
					リスクマネジメント			
					ファイナンシャル マネジメント			
					調達マネジメント			
					プロジェクトマネジメント の契約管理			
ビジネス/ インダストリ				プロジェクトマネジメント最新動向				
				インダストリアプリケーション動向				
				最新ビジネス動向				
パーソナル				プロジェクトマネジメントのリーダーシップ				
				プロジェクトマネジメントのコミュニケーション				
				プロジェクトマネジメントのネットワーキング				

 : 職種共通

 : 専門分野別選択

プロジェクトマネジメント(システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション)の研修コース一覧 Ver. 1.2

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁	
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)		
職種共通	基礎講座	システム設計				30	5	14	
		システム構築				60	5	18	
		システム運用/保守				30	5	21	
		プロジェクトマネジメント基礎				30		25	
		プロジェクトマネジメント実践	プロジェクトマネジメント実践					4	30
			プロジェクトマネジメントツールとプロセス				12		35
		システム要件定義技法				12	3	38	
	コンサルティングメソッドロジ					3	41		
	上級講座	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ					3	44	
		プロジェクトマネジメントのコミュニケーション					3	47	
		プロジェクトマネジメントのネゴシエーション					3	50	
		コンプレックスプロジェクトマネジメント					3	53	
		品質マネジメント					2	59	
		リスクマネジメント					3	62	
		ファイナンシャルマネジメント				24	3	65	
		調達マネジメント					3	68	
	特別講座	プロジェクトマネジメントの契約管理				12		71	
		最新技術動向					1	74	
		プロジェクトマネジメント最新動向				3		77	
		最新ビジネス動向				3	0.5	82	
		インダストリアプリケーション動向				12	2	85	
	コミュニティ活動				-	-	88		
専門分野別選択	基礎講座	プロジェクトマネジメント方法論(システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション)				18	2	91	
	上級講座	DOA 構造化手法					2	94	

プロジェクトマネジメント(アウトソーシング)の研修コース一覧

ver.1.2

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁		
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)			
職種共通	基礎講座	システム設計				30	5	14		
		システム構築				60	5	18		
		システム運用/保守				30	5	21		
		プロジェクトマネジメント基礎				30		25		
		プロジェクトマネジメント実践						4	30	
			プロジェクトマネジメントツールとプロセス				12		35	
		システム要件定義技法				12	3	38		
	コンサルティングメソッド					3	41			
	上級講座	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ					3	44		
		プロジェクトマネジメントのコミュニケーション					3	47		
		プロジェクトマネジメントのネゴシエーション					3	50		
		コンプレックスプロジェクトマネジメント					3	53		
		品質マネジメント					2	59		
		リスクマネジメント					3	62		
		ファイナンシャルマネジメント				24	3	65		
		調達マネジメント					3	68		
		プロジェクトマネジメントの契約管理				12		71		
	特別講座	最新技術動向					1	74		
		プロジェクトマネジメント最新動向					3	77		
		最新ビジネス動向					3	0.5	82	
		インダストリアプリケーション動向					12	2	85	
		コミュニティ活動				-	-	-	88	
	専門分野別選択	上級講座	アウトソーシングプロジェクトマネジメントのためのシステム運用管理方法論					3	120	
			アウトソーシングビジネスのプロジェクトマネジメント	アウトソーシングプロジェクトマネジメント概説				2	123	
				アウトソーシングプロジェクトマネジメント実践					5	128
				アウトソーシングプロジェクトマネジメントのための会計・経営管理概説				12		133

プロジェクトマネジメント(ネットワークサービス)の研修コース一覧

ver.1.2

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁			
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)				
職種共通	基礎講座	システム設計	システム設計の基礎				30	5	14		
		システム構築	システム構築				60	5	18		
		システム運用/保守	システム運用/保守				30	5	21		
		プロジェクトマネジメント基礎	プロジェクトマネジメント基礎				30		25		
		プロジェクトマネジメント実践	プロジェクトマネジメント実践					4		30	
			プロジェクトマネジメントツールとプロセス				12			35	
		システム要件定義技法	システム要件定義技法				12	3		38	
	コンサルティングメソッドロジ	コンサルティングメソッドロジ					3		41		
	上級講座	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ					3		44	
		プロジェクトマネジメントのコミュニケーション	プロジェクトマネジメントのコミュニケーション					3		47	
		プロジェクトマネジメントのネゴシエーション	プロジェクトマネジメントのネゴシエーション					3		50	
		コンプレックスプロジェクトマネジメント	コンプレックスプロジェクトマネジメント					3		53	
		品質マネジメント	品質マネジメント					2		59	
		リスクマネジメント	リスクマネジメント					3		62	
		ファイナンシャルマネジメント	ファイナンシャルマネジメント				24	3		65	
		調達マネジメント	調達マネジメント					3		68	
		プロジェクトマネジメントの契約管理	プロジェクトマネジメントの契約管理				12			71	
	特別講座	最新技術動向	最新技術動向					1		74	
		プロジェクトマネジメント最新動向	プロジェクトマネジメント最新動向				3			77	
		最新ビジネス動向	最新ビジネス動向				3	0.5		82	
		インダストリアプリケーション動向	インダストリアプリケーション動向				12	2		85	
		コミュニティ活動	コミュニティ活動	-	-	-	-	-		88	
	専門分野別選択	基礎講座	プロジェクトマネジメント方法論(ネットワークサービス)	プロジェクトマネジメント方法論(ネットワークサービス)					2		97
		上級講座	ネットワークプロジェクトマネジメント事例	ネットワークプロジェクトマネジメント事例				3			100

プロジェクトマネジメント(e ビジネスソリューション)の研修コース一覧

ver.1.2

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁		
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)			
職種共通	基礎講座	システム設計	システム設計の基礎				30	5	14	
		システム構築	システム構築				60	5	18	
		システム運用 / 保守	システム運用 / 保守				30	5	21	
		プロジェクトマネジメント基礎	プロジェクトマネジメント基礎				30		25	
		プロジェクトマネジメント実践	プロジェクトマネジメント実践					4	30	
			プロジェクトマネジメントツールとプロセス				12		35	
		システム要件定義技法	システム要件定義技法				12	3	38	
	コンサルティングメソッド	コンサルティングメソッド					3	41		
	上級講座	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ					3	44	
		プロジェクトマネジメントのコミュニケーション	プロジェクトマネジメントのコミュニケーション					3	47	
		プロジェクトマネジメントのネゴシエーション	プロジェクトマネジメントのネゴシエーション					3	50	
		コンプレックスプロジェクトマネジメント	コンプレックスプロジェクトマネジメント					3	53	
		品質マネジメント	品質マネジメント					2	59	
		リスクマネジメント	リスクマネジメント					3	62	
		ファイナンシャルマネジメント	ファイナンシャルマネジメント				24	3	65	
		調達マネジメント	調達マネジメント					3	68	
		プロジェクトマネジメントの契約管理	プロジェクトマネジメントの契約管理				12		71	
	特別講座	最新技術動向	最新技術動向					1	74	
		プロジェクトマネジメント最新動向	プロジェクトマネジメント最新動向				3		77	
		最新ビジネス動向	最新ビジネス動向				3	0.5	82	
		インダストリアプリケーション動向	インダストリアプリケーション動向				12	2	85	
		コミュニティ活動	コミュニティ活動	-	-	-	-	-	88	
	専門分野別選択	上級講座	eビジネスソリューション開発方法論	eビジネスソリューション開発方法論					3	110
			eビジネスソリューションプロジェクトマネジメント	eビジネスソリューションプロジェクトマネジメント					3	115

プロジェクトマネジメント(ソフトウェア開発)の研修コース一覧

ver.1.2

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁	
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)		
職種共通	基礎講座	システム設計				30	5	14	
		システム構築				60	5	18	
		システム運用/保守				30	5	21	
		プロジェクトマネジメント基礎				30		25	
		プロジェクトマネジメント実践						4	30
			プロジェクトマネジメントツールとプロセス				12		35
		システム要件定義技法				12	3	38	
	コンサルティングメソッド					3	41		
	上級講座	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ					3	44	
		プロジェクトマネジメントのコミュニケーション					3	47	
		プロジェクトマネジメントのネゴシエーション					3	50	
		コンプレックスプロジェクトマネジメント					3	53	
		品質マネジメント					2	59	
		リスクマネジメント					3	62	
		ファイナンシャルマネジメント				24	3	65	
		調達マネジメント					3	68	
		プロジェクトマネジメントの契約管理				12		71	
	特別講座	最新技術動向					1	74	
		プロジェクトマネジメント最新動向				3		77	
		最新ビジネス動向				3	0.5	82	
		インダストリアプリケーション動向				12	2	85	
		コミュニティ活動				-	-	88	
	専門分野別選択	基礎講座	プロジェクトマネジメント方法論(ソフトウェア製品開発)					5	103
		上級講座	ソフトウェア開発プロジェクトマネジメント					5	106

プロジェクトマネジメント
研修コースの内容
< 職種共通 >

システム設計（1コース）

- システム設計の基礎

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	システム設計の基礎
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、アプリケーションの種類を問わず一般的な情報システムを設計する上で普遍的に必要なメソッドロジ、テクニック、デザインパターンなど、システム設計に係る広範な領域に関する基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、情報システムの業務要件の分析手法、外部設計と内部設計に必要な知識、ユーザや他システムとのインターフェイスの設計手法などを学習する。また、それらに付随する情報システムの処理フロー設計や、設計を行うために用いられる各種図表、ツールなどもあわせて学習する。</p> <p>コース前半は、情報システムの設計に関する基礎知識をeラーニング形式で学習する。後半は、講義形式に加えて実際の情報システムの開発に模したプロジェクトでの設計作業をワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を持ち、プロジェクトマネジメントを目指している者(プロジェクトマネジメントのレベル3を目指す者)
受講前提	ITの基礎知識およびシステム開発の基礎知識を有し、システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を有すること
研修方法	eラーニング、講義、ワークショップ
期間	前半:標準時間 30時間 (eラーニング 1日 6時間×5日)、後半 標準日数 5日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	システムの設計に関する基本的な知識を活用し、プロジェクトメンバとして、システム設計を実践することができる。

対象スキル項目	関連する知識
業務分析	<ul style="list-style-type: none"> - 技術要件分析 現行IT環境分析、新規技術要件の把握、ニーズの分析と優先順位付け - プラットフォーム要件定義 CPU能力の見積、ストレージ容量の見積、伝送量の見積、トランザクション量の見積、レスポンスの見積
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - システムプラットフォーム技術 オペレーティングシステム技術の活用と実践(メインフレーム、分散機(オフコン)、UNIX、WINDOWS、Linuxなど) - 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> - データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング設計 最適データベースの選定、最適ミドルウェアの選定、最適分散コンピューティング選定、データベース機能および制約事項の理解、ミドルウェア機能および制約事項の理解、分散コンピューティング機能および制約事項の理解、データベースを利用したアプリケーション設計の実践、ミドルウェアを利用したアプリケーション設計の実践、分散コンピューティングを利用したアプリケーション設計の実践 - モデリング技法の理解と活用 データモデリング技法の活用と実践、プロセスモデリング技法の活用と実践、パフォーマンスモデリング技法の活用と実践、プロトタイプング技法の活用と実践、ベンチマーキング技法の活用と実践 - プログラム設計 開発手法とプラットフォームの選定、プログラム設計基準、プログラム設計書の作成、テスト計画と仕様の作成

対象スキル項目	関連する知識
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - 設計手法 オブジェクト指向設計、構造化設計、データ中心型設計 - 開発手法 開発手法の選定、開発手法の活用と実践、ウォーターフォール型・RAD型・スパイラル型、業務パッケージ固有の開発手法 - 開発支援ツール 開発環境、各種アプリケーション開発ツール、各種構成管理ツール、各種デバッガ、各種シミュレータ、その他の開発支援ツール - 再利用手法 ソフトウェア部品の利用、先行プロジェクトの成果物利用、再利用手法の活用と実践 - 外部設計 外部設計の手順、システム機能設計、データモデルの設計、外部設計書の作成 - 内部設計 機能設計、インターフェイス設計、内部データ設計、サブコンポーネントの識別、役割定義、サブコンポーネント間の関係定義、内部設計書の作成 - オブジェクト指向開発 オブジェクト指向の基本概念、UML、オブジェクト指向開発プロセス、分析と設計と実装、主なオブジェクト指向技術

システム構築（1コース）

- システム構築

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	システム構築
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、情報システムの構築に関する基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、アプリケーションの構築に必要とされる言語のほかに、代表的なアルゴリズム、アプリケーションをテストする際の妥当性や結果の評価方法、情報システムの導入、移行やプロジェクトの進捗管理手法などを学習する。</p> <p>コース前半では、情報システムの構築を行う際に用いられる代表的な言語やミドルウェアで使用される言語のプログラミング実習を行うほか、代表的なアルゴリズム、プログラミングで使用される各種ツール、プロジェクトを円滑に遂行するために用いられる進捗状況の把握方法などをeラーニング形式で学習する。後半は、実際の情報システムの構築に模した環境におけるコーディング、管理業務に関する演習についてワークショップ形式で実践的に学習する。</p> <p>コース前半のプログラミング学習をeラーニング形式で行う際には、できる限り実際のシステム構築環境に近い実習環境が構築されていることが望ましい。</p>
受講対象者	システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を持ち、プロジェクトマネジメントを目指している者(プロジェクトマネジメントのレベル3を目指す者)
受講前提	ITの基礎知識およびシステム開発の基礎知識を有し、システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を有すること
研修方法	eラーニング、ワークショップ
期間	前半:標準時間 60時間 (eラーニング 1日 6時間×10日)、後半:標準日数 5日(クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	システムの構築に関する基本的な知識を活用し、プロジェクトメンバとして、システム構築を実践することができる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践 - プログラミング言語、マークアップランゲージ C、C++、COBOL、Java、UML、HTML、XML などの各種言語と表記法の特徴およびグラフィカルな開発環境の使用法 - コンピュータ科学基礎 情報の基礎理論、データ構造とアルゴリズム
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> - 開発環境設計 開発環境要件の定義、プラットフォーム選定 - 技術検証手法の活用と実践 プロトタイピング、シミュレーション
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - 開発支援ツール 開発環境、各種アプリケーション開発ツール、各種構成管理ツール、各種デバッガ、各種シミュレータ、その他の開発支援ツール - プログラミング技術 各種プログラミング言語技術の活用と実践 - テスト技法 テストケース設計、仕様決定、テスト環境設定、管理、テストデータ準備、テストツールの活用 - 再利用手法 ソフトウェア部品の利用、先行プロジェクトの成果物利用、再利用手法の活用と実践 - デバッグ技法 デバッグツールの活用と実践 - オブジェクト指向開発 オブジェクト指向の基本概念、UML、オブジェクト指向開発プロセス、分析と設計と実装、主なオブジェクト指向技術
タイムマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - スケジュール開発と管理 数学的分析(Critical Path Method、PERT等)、所要時間の短縮、シミュレーションの実施、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクトスケジュールの作成、スケジュールマネジメント計画書の作成、スケジュール変更管理

システム運用 / 保守 (1コース)

- システム運用 / 保守

<div style="text-align: center;">コース名</div>	システム運用 / 保守
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発 / アプリケーション開発 / システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、情報システムの運用、保守に関する基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、情報システムを円滑に稼働するために必要となる各種管理(運用管理、問題管理、変更管理、構成管理、パフォーマンス管理、キャパシティ管理、セキュリティ管理、サービスレベル管理、情報資産管理)の項目、手法、基準を学習する。また、オペレーティングシステムや重要なミドルウェアの障害時の対応、情報システムに対する監視、パフォーマンスの管理、人による誤操作や障害に対する対策、復旧、市販アプリケーションのバージョンアップなどの保守に関しても学習する。</p> <p>コース前半は、情報システムの運用、保守に関する基本的知識をeラーニング形式で学習する。後半は、講義形式に加えて、既に運用されている情報システムに模した環境における演習についてワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を持ち、プロジェクトマネジメントを目指している者(プロジェクトマネジメントのレベル3を目指す者)
受講前提	ITの基礎知識およびシステム開発の基礎知識を有し、システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を有すること
研修方法	eラーニング、講義、ワークショップ
期間	前半:標準時間 30時間 (eラーニング 1日 6時間×5日)、後半:標準日数 5日(クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	システムの運用、保守に関する基本的な知識を活用し、プロジェクトメンバとして、システムの運用、保守を実践することができる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - システム管理技術 システム資源監視技術、プロセス監視技術、システムソフトウェアやミドルウェアの管理機能のインターフェイス技術、パフォーマンス計測技術、ハードウェアやソフトウェアの構成管理機能、ソフトウェア配布機能、ジョブ管理機能、遠隔操作機能、アクセス管理機能、ユーザ管理機能、リスク管理機能、ストレージ管理機能 - 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - セキュリティシステムの実装、検査 セキュリティ製品またはツールの選定と導入、セキュリティシステムの開発、セキュリティ技術の実装
汎用業務システム構築(人事/会計/総務等)	<ul style="list-style-type: none"> - 汎用業務内容 汎用業務内容、特性の把握と活用、業務別標準技術の把握と活用 - インダストリ知識 インダストリ共通アプリケーションに関する知識の活用、インダストリ固有アプリケーションに関する知識の活用、インダストリビジネス動向の把握、インダストリ技術動向の把握、インダストリ競合状況の把握、インダストリ用語の把握と活用、関連法規の把握と活用、インダストリ別事業環境の把握と活用、インダストリ別ビジネス慣行の把握と活用、インダストリ固有業務内容の把握と活用 - 汎用業務最新動向 業務別最新動向の把握と活用、業務別システム導入事例の把握と活用
業務パッケージを活用した業務システム構築	<ul style="list-style-type: none"> - 業務パッケージパフォーマンスチューニング パフォーマンスチューニング手法の活用と実践(トレース、デバッグ、問題判別、問題解決、アクセスパスインデックシング手法など) - 業務パッケージ内容、業務パッケージの特性の把握と活用
統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 統合変更管理 変更管理、構成管理、プロジェクト進捗評価基準の活用と実践、プロジェクト計画書更新版の策定

対象スキル項目	関連する知識
タイムマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 作業定義 作業の細分化と詳細化、作業項目リストの作成、WBS 更新版の作成 - 作業順序設定 PDM(Precedence diagramming method)、ADM(Arrow diagramming method)、Conditional diagramming method、プロジェクトネットワーク図の作成、作業項目リストの作成 - 作業所要時間見積 所要時間見積、作業項目リストの作成 - スケジュール開発と管理 数学的分析(Critical Path Method、PERT等)、所要時間の短縮、シミュレーションの実施、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクトスケジュールの作成、スケジュールマネジメント計画書の作成、スケジュール変更管理
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスクマネジメント計画策定 - リスク識別 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT 分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - リスク対応計画 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value分析

プロジェクトマネジメント基礎 (1コース)

- プロジェクトマネジメント基礎

コース名	プロジェクトマネジメント基礎
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、プロジェクトマネジメントに関する基礎的な知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、「PMBOK」に準じて、プロジェクトの定義、組織化、計画策定、スケジュール策定、プロジェクト実施と管理、プロジェクト完了等、プロジェクトマネジメント全局面の知識領域について基礎的な内容を網羅しており、業種や分野別の特性にとらわれない汎用的なプロジェクトマネジメントの概念を学習する。</p>
受講対象者	システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を持ち、プロジェクトマネジメントを目指している者(プロジェクトマネジメントのレベル3を目指す者)
受講前提	ITの基礎知識およびシステム開発の基礎知識を有し、システム開発・運用管理などのプロジェクトに参加した経験を有すること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 30時間 (1日6時間×5日)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトマネジメントに関する基礎的な知識を駆使し、プロジェクトメンバとして、プロジェクトを実行できる。

対象スキル項目	関連する知識
統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト計画の策定 プロジェクト計画メソッドの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクト計画書の策定 - プロジェクト計画の実施 一般的な管理スキルの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、承認プロセスの把握、進捗管理会議運営、組織の手続きの把握 - 統合変更管理 変更管理、構成管理、プロジェクト進捗評価基準の活用と実践、プロジェクト計画書更新版の策定
スコープマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト開始 プロジェクト憲章の策定、プロジェクトマネージャの選定と任命、制約条件と前提条件の把握 - スコープ計画 スコープ記述書の策定、スコープマネジメント計画書の策定 - スコープ定義 WBSの作成、スコープ記述書更新版の策定 - スコープ検証 - スコープ変更管理 スコープ変更、ベースライン文書の改訂
タイムマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 作業定義 作業の細分化と詳細化、作業項目リストの作成、WBS更新版の作成 - 作業順序設定 PDM(Precedence diagramming method)、ADM(Arrow diagramming method)、Conditional diagramming method、プロジェクトネットワーク図の作成、作業項目リストの作成 - 作業所要時間見積 所要時間見積、作業項目リストの作成 - スケジュール開発と管理 数学的分析(Critical Path Method、PERT等)、所要時間の短縮、シミュレーションの実施、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクトスケジュールの作成、スケジュールマネジメント計画書の作成、スケジュール変更管理

対象スキル項目	関連する知識
コストマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 資源計画 資源計画の検討と策定、代替案の定義 - コスト積算 トップダウンコスト見積の実施、ボトムアップコスト見積の実施、見積ツールの活用と実践、コスト見積方法論の活用と実践 - 予算設定 予算設定ツールと技術の活用と実践、コストベースラインの作成 - コストコントロール コスト変更管理の実施、進捗状況評価基準の把握と実践、EVM(Earned value management)の活用と実践、コストコントロールツールの活用と実践
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用と実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践 - 品質コントロール 監査、コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、フローチャートの活用と実践、傾向分析
組織マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト組織計画 人材業務の実践、組織論の実践 - 要員調達 要員計画の策定、採用業務の実施、ネゴシエーション、調達 - チーム体制化 チーム構成作業の実施、一般的な管理業務の実施、適材配置の実践、チーム育成

対象スキル項目	関連する知識
コミュニケーションマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - コミュニケーション計画 コミュニケーション要件の把握、コミュニケーション技術の活用と実践 - 情報配布 コミュニケーションスキルの活用と実践、情報配布方法論の活用と実践 - 実績報告 進捗検証、予実分析、傾向分析、Earned Value 分析 - プロジェクト完了手続 プロジェクト実績報告、プロジェクト報告書の作成、プロジェクトプレゼンテーションの実施
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスクマネジメント計画策定 - リスク識別 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT 分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - 定性的リスク分析 リスク発生頻度と損害の大きさによる分析、リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分析 - 定量的リスク分析 情報収集技術(インタビュー)の活用と実践、重大性分析、デシジョンツリ分析、シミュレーションの実施 - リスク対応計画 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value分析
調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 調達計画 内製外製の分析、契約形態の選択、調達計画書の作成 - 引合計画と引合 調達文書の作成、評価基準の設定、プロポーザルの受理 - 発注先選定 - 契約管理 契約業務の理解、契約条件の確認と合意、契約の締結、例外事項の処理、外注と OEM 契約業務の理解、関連法規の理解と遵守

プロジェクトマネジメント実践（2コース）

- プロジェクトマネジメント実践
- プロジェクトマネジメントツールとプロセス

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	プロジェクトマネジメント実践：プロジェクトマネジメント実践
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、「プロジェクトマネジメント基礎」の後続となる「プロジェクトマネジメント実践」コース群の一つとして、プロジェクトマネジメント全般に関する実践的な知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、「プロジェクトマネジメント基礎」にて修得した基礎知識をもとに、演習と事例研究により補強し、より実践的な知識へとステップアップする。</p> <p>当コースは、講義形式でプロジェクトマネジメントの基礎的な理論と技法を確認し、ワークショップ形式の事例研究で実践的に学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を持つ者(プロジェクトマネジメントのレベル4を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 4日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトマネジメントに関する実践的な知識を駆使し、プロジェクトリーダーとして、プロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト計画の策定 プロジェクト計画メソッドの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクト計画書の策定 - プロジェクト計画の実施 一般的な管理スキルの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、承認プロセスの把握、進捗管理会議運営、組織の手続きの把握 - 統合変更管理 変更管理、構成管理、プロジェクト進捗評価基準の活用と実践、プロジェクト計画書更新版の策定
スコープマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト開始 プロジェクト憲章の策定、プロジェクトマネージャの選定と任命、制約条件と前提条件の把握 - スコープ計画 スコープ記述書の策定、スコープマネジメント計画書の策定 - スコープ定義 WBS の作成、スコープ記述書更新版の策定 - スコープ検証 - スコープ変更管理 スコープ変更、ベースライン文書の改訂

対象スキル項目	関連する知識
タイムマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 作業定義 作業の細分化と詳細化、作業項目リストの作成、WBS 更新版の作成 - 作業順序設定 PDM(Precedence diagramming method)、ADM(Arrow diagramming method)、Conditional diagramming method、プロジェクトネットワーク図の作成、作業項目リストの作成 - 作業所要時間見積 所要時間見積、作業項目リストの作成 - スケジュール開発と管理 数学的分析(Critical Path Method、PERT等)、所要時間の短縮、シミュレーションの実施、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクトスケジュールの作成、スケジュールマネジメント計画書の作成、スケジュール変更管理
コストマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 資源計画 資源計画の検討と策定、代替案の定義 - コスト積算 トップダウンコスト見積の実施、ボトムアップコスト見積の実施、見積ツールの活用と実践、コスト見積方法論の活用と実践 - 予算設定 予算設定ツールと技術の活用と実践、コストベースラインの作成 - コストコントロール コスト変更管理の実施、進捗状況評価基準の把握と実践、EVM(Earned value management)の活用と実践、コストコントロールツールの活用と実践

対象スキル項目	関連する知識
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用と実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践 - 品質コントロール 監査、コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、フローチャートの活用と実践、傾向分析
組織マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト組織計画 人材業務の実践、組織論の実践 - 要員調達 要員計画の策定、採用業務の実施、ネゴシエーション、調達 - チーム体制化 チーム構成作業の実施、一般的な管理業務の実施、適材配置の実践、チーム育成
コミュニケーションマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - コミュニケーション計画 コミュニケーション要件の把握、コミュニケーション技術の活用と実践 - 情報配布 コミュニケーションスキルの活用と実践、情報配布方法論の活用と実践 - 実績報告 進捗検証、予実分析、傾向分析、Earned Value 分析 - プロジェクト完了手続 プロジェクト実績報告、プロジェクト報告書の作成、プロジェクトプレゼンテーションの実施

対象スキル項目	関連する知識
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスクマネジメント計画策定 - リスク識別 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT 分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - 定性的リスク分析 リスク発生頻度と損害の大きさによる分析、リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分析 - 定量的リスク分析 情報収集技術(インタビュー)の活用と実践、重大性分析、デシジョンツリ分析、シミュレーションの実施 - リスク対応計画 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value分析
調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 調達計画 内製外製の分析、契約形態の選択、調達計画書の作成 - 引合計画と引合 調達文書の作成、評価基準の設定、プロポーザルの受理 - 発注先選定 - 契約管理 契約業務の理解、契約条件の確認と合意、契約の締結、例外事項の処理、外注と OEM 契約業務の理解、関連法規の理解と遵守

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	プロジェクトマネジメント実践：プロジェクトマネジメントツールとプロセス
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、「プロジェクトマネジメント基礎」の後続となる「プロジェクトマネジメント実践」コース群の一つとして、プロジェクトマネジメントに有用な管理ツール、プロジェクトマネジメントの実行に係る業務的手続きに関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースは、実際のプロジェクトで活用している市販を中心としたプロジェクトマネジメント用ツールに関する機能概要と利用方法、プロジェクトマネジメントを実際に行うに当たって各企業において必要となるプロジェクトの登録、契約管理、要員管理、外注管理、進捗管理、変更管理、完了手続きなどの業務プロセスを学習する。</p> <p>当コースは、学習対象とするツールによってはワークショップ形式で行うことも想定される。また、研修期間も学習に応じて異なる。</p>
受講対象者	プロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を持つ者(プロジェクトマネジメントのレベル4を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、(必要に応じてワークショップ)
期間	標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×2日) ただし、実際には研修対象とするツールあるいは業務プロセスを規定する企業毎に必要な所要時間は異なる
研修修了後の スキル修得目標	プロジェクトマネジメントツールを活用しまた適切なプロジェクトマネジメント業務プロセスを踏まえて、プロジェクトリーダーとして、プロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none">- プロジェクト計画の策定 プロジェクト計画メソッドの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクト計画書の策定- プロジェクト計画の実施 一般的な管理スキルの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、承認プロセスの把握、進捗管理会議運営、組織の手続きの把握- 統合変更管理 変更管理、構成管理、プロジェクト進捗評価基準の活用と実践、プロジェクト計画書更新版の策定

システム要件定義技法（1コース）

- システム要件定義技法

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	システム要件定義技法
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、顧客の業務要件、システム要件を客観的に定義し、システム構築を円滑に推進する上で必要となる要件定義のプロセス、技法に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、事業戦略、事業方針の確認、プロジェクトスコープの定義、利用部門へのインタビュー、データの収集、整理、分析、新旧ビジネスプロセスの分析、設計、システム環境分析、システム要件の定義、要件の確認、要件定義書の作成などの、要件定義局面における基本的なプロセスと、開発期間、予算、体制等の制約条件に基づく顧客要件の優先順位付けと要件絞り込み、決定といった、実際のプロジェクト運営で必要となる実践的な要件定義適用方法論を学習する。</p> <p>コース前半は、基本的な要件定義のプロセス、考慮点に関する知識をeラーニング形式で学習する。後半は、顧客要件の把握と絞り込み事例などの疑似体験といったワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を持つ者(プロジェクトマネジメントのレベル4を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、ワークショップ
期間	前半:標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×2日)、後半:標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	顧客の業務要件を理解し要件定義に関する知識を活用し、プロジェクトリーダとして、システムの要件定義を実践することができる。

対象スキル項目	関連する知識
業務分析	<ul style="list-style-type: none"> - ユーザとのリレーション確立 - インダストリ知識 インダストリ共通アプリケーションに関する知識の活用、インダストリ固有アプリケーションに関する知識の活用、インダストリビジネス動向の把握、インダストリ技術動向の把握、インダストリ競合状況の把握、インダストリ用語の把握と活用、関連法規の把握と活用、インダストリ別事業環境の把握と活用、インダストリ別ビジネス慣行の把握と活用、インダストリ固有業務内容の把握と活用 - ビジネスプロセス分析、設計技法 現行ビジネスプロセスの分析と把握、新ビジネスプロセスの分析と設計、ビジネスプロセス分析手法の活用と実践 - 業務要件分析 ユーザニーズの把握、ニーズの分析と優先順位付け - 技術要件分析 現行IT環境分析、新規技術要件の把握、ニーズの分析と優先順位付け
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義 ユーザ要求とプロジェクト範囲の明確化、案件の優先順位付けと関連部門の調整、要件調査の実施、要件の定義と文書化、資源要求の調査、システム化計画の策定

コンサルティングメソドロジ (1コース)

- コンサルティングメソドロジ

コース名	コンサルティングメソドロジー
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、コンサルティングの基本的な方法論、コンサルティングプロセス、そのプロセスで使われるテクニックを理解し、実践するための知識の修得を目的とする。</p> <p>コース前半は、コンサルティング技法を使ったコンサルティングプロセス全体の作業の流れ、データ収集、整理、分析方法、課題の抽出と分析方法、解決策の検討と策定の進め方、問題解決のプロセス、論理的かつ効果的なレポートの作成とプレゼンテーション手法や折衝方法などをeラーニング形式で学習する。後半は、コンサルティングの方法論を活用したコンサルティングプロセスの適用方法と適用事例の検討をワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を持つ者(プロジェクトマネジメントのレベル4を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、講義、ワークショップ
期間	前半:標準時間 12時間 (eラーニング:1日 6時間×2日間)、後半:標準日数 2日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	コンサルティングに関する基礎的な知識を活用し、プロジェクトリーダーとして、効果的なコンサルティングプロセスを実践することができる。

対象スキル項目	関連する知識
コンサルティングメソドロジの活用	<ul style="list-style-type: none"> - コンサルティングメソドロジの選択と活用 コンサルティングメソドロジの比較と分析、コンサルティングメソドロジの選定と適用、プロセスの定義と実践、成果物の定義と作成、コンサルティング技術の適用 - 分析ツールとモデルの理解と活用 事業ライフサイクル(導入期、成長期、成熟期、衰退期)モデル、プロダクトポートフォリオマネジメント(PPM)モデル、経験カーブ、3C分析、SWOT分析、7Sモデル、マイケル・ポーターの5Forcesモデル、バリューチェーン分析、その他
知的資産管理(Knowledge Management)活用	<ul style="list-style-type: none"> - 知的資産の管理と活用 知的資産のデータベース化(付加価値、構造化、共有化)、知的資産の活用、知的資産の維持と管理、効果の把握と改善の実施、ビジネスモデル特許
コンサルティングの実施	<ul style="list-style-type: none"> - コンサルティング技術の活用 仮説設定、データ収集、インタビューの実施、セッションの運営、データ分析、検証、コミュニケーションとネゴシエーションの実施、報告書の作成 - 顧客リレーション 顧客リレーションの確立と維持
統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト計画の策定 プロジェクト計画メソドロジの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクト計画書の策定

プロジェクトマネジメントのリーダーシップ

(1コース)

- プロジェクトマネジメントのリーダーシップ

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	プロジェクトマネジメントのリーダーシップ
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、あらゆるプロジェクトの成功要因である目標の設定、チーム形成、チーム内およびチーム外とのコミュニケーション、プロジェクト実施項目の作成、推進、管理、動機づけに関する実践的なスキルの修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、中規模以上または複雑なプロジェクトを推進していく上で必要なリーダーシップ、自身に対する動機づけ、チーム形成を通じたチームメンバーに対する動機づけ、対人スキル、確執の管理と合意形成について、ロールプレイを取り入れてワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトリーダーまたはプロジェクトメンバーとして、複数のプロジェクトを実施した経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル4、5を目指す者)
受講前提	リーダーシップに関する基礎的な知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトチームを管理、運営する実践的なスキルを活用し、プロジェクトリーダーまたはプロジェクト責任者として、リーダーシップを発揮することができる。

対象スキル項目	関連する知識
リーダーシップ	- リーダーシップ リーダーシップの基本や原則の把握と実践、チームワークとコミュニケーションの実践、プロジェクト目標の設定、プロジェクトの推進、プロジェクトの実行、プロジェクトマネジメント、チームメンバーの連携、チームメンバーの動機付けと達成感の提供

プロジェクトマネジメントのコミュニケーション

(1コース)

- プロジェクトマネジメントのコミュニケーション

コース名	プロジェクトマネジメントのコミュニケーション
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、あらゆるプロジェクトの成功要因であるプロジェクト関係者との効果的、効率的なコミュニケーションに関する実践的なスキルの修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、中規模以上または複雑なプロジェクトを推進していく上で必要な2Wayコミュニケーション、情報伝達、情報処理について、ロールプレイを取り入れてワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトリーダーまたはプロジェクトメンバとして、複数のプロジェクトを実施した経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル4、5を目指す者)
受講前提	コミュニケーションに関する基礎的な知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクト関係者とのコミュニケーションに関する実践的なスキルを活用し、プロジェクトリーダーまたはプロジェクト責任者として、効果的なコミュニケーションを図ることができる。

対象スキル項目	関連する知識
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> - コミュニケーション(2Way) 対話またはインタビューの実施、意思疎通、コミュニケーション手法の活用と実践、効果的な話し方と聞き方の実践 - コミュニケーション(情報伝達) プレゼンテーション技術の活用と実践、公式または非公式文書の作成、文書表現および表現力の活用と実践、メディア選択、説得技法の活用と実践 - コミュニケーション(情報処理) 状況対応能力の育成と実践、状況理解力の活用と実践、ミーティング運営技術の活用と実践

プロジェクトマネジメントのネゴシエーション

(1コース)

- プロジェクトマネジメントのネゴシエーション

コース名	プロジェクトマネジメントのネゴシエーション
研修コースの内容	講座分類
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、プロジェクトのあらゆる状況、場面におけるネゴシエーションに関する実践的なスキルの修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、中規模以上または複雑なプロジェクトを推進していく上で発生するあらゆる状況、場面における利害関係者とのネゴシエーションに関して、ネゴシエーションのプロセスを幾つかのフェーズに分け、想定される問題点を理解し、交渉相手との解決策を作成するプロセスについて、ロールプレイを取り入れてワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトリーダーまたはプロジェクトメンバとして、複数のプロジェクトを実施した経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル4、5を目指す者)
受講前提	ネゴシエーションに関する基礎的な知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトにおけるネゴシエーションに関する実践的なスキルを活用し、プロジェクトリーダーまたはプロジェクト責任者として、効果的なネゴシエーションを実践することができる。

対象スキル項目	関連する知識
ネゴシエーション	- ネゴシエーション 交渉プロセスの把握と実践、効果的な交渉技法の活用と実践、信頼関係の確立、目標の設定、共通利益、論理的思考の実践、問題解決手法の活用と実践

コンプレックスプロジェクトマネジメント

(1コース)

- コンプレックスプロジェクトマネジメント

コース名	コンプレックスプロジェクトマネジメント
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、システム、デザイン、アプリケーション、体制、契約条件等の要件が複雑なプロジェクト環境において、プロジェクトを成功裡に実施する管理能力に係る知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、先進的、ミッションクリティカル、高パフォーマンスもしくは複数のプラットフォーム構成といった高度なシステム要件、アプリケーション要件が求められるプロジェクトや、短期開発、大規模開発、複雑な協業関係もしくは契約条件、完了条件といった体制面、契約面で複雑な要件が求められるプロジェクトにおいて、基本的プロジェクトマネジメント理論を踏まえた上で更に修得しておくべき注意点、考慮点を、ワークショップ形式の疑似体験などで実践的に学習する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者またはプロジェクトリーダーとして、中規模以上または複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル5、6を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	複雑度の高いプロジェクト環境において、プロジェクト責任者として、プロジェクト全工程におけるプロジェクトマネジメントを実践し、プロジェクトを成功裡に完了できる。

対象スキル項目	関連する知識
統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト計画の策定 プロジェクト計画メソッドの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクト計画書の策定 - プロジェクト計画の実施 一般的な管理スキルの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、承認プロセスの把握、進捗管理会議運営、組織の手続きの把握 - 統合変更管理 変更管理、構成管理、プロジェクト進捗評価基準の活用と実践、プロジェクト計画書更新版の策定
スコープマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト開始 プロジェクト憲章の策定、プロジェクトマネージャの選定と任命、制約条件と前提条件の把握 - スコープ計画 スコープ記述書の策定、スコープマネジメント計画書の策定 - スコープ定義 WBSの作成、スコープ記述書更新版の策定 - スコープ検証 - スコープ変更管理 スコープ変更、ベースライン文書の改訂
タイムマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 作業定義 作業の細分化と詳細化、作業項目リストの作成、WBS更新版の作成 - 作業順序設定 PDM(Precedence diagramming method)、ADM(Arrow diagramming method)、Conditional diagramming method、プロジェクトネットワーク図の作成、作業項目リストの作成 - 作業所要時間見積 所要時間見積、作業項目リストの作成 - スケジュール開発と管理 数学的分析(Critical Path Method、PERT等)、所要時間の短縮、シミュレーションの実施、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクトスケジュールの作成、スケジュールマネジメント計画書の作成、スケジュール変更管理

対象スキル項目	関連する知識
コストマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 資源計画 資源計画の検討と策定、代替案の定義 - コスト積算 トップダウンコスト見積の実施、ボトムアップコスト見積の実施、見積ツールの活用と実践、コスト見積方法論の活用と実践 - 予算設定 予算設定ツールと技術の活用と実践、コストベースラインの作成 - コストコントロール コスト変更管理の実施、進捗状況評価基準の把握と実践、EVM(Earned value management)の活用と実践、コストコントロールツールの活用と実践
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用と実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践 - 品質コントロール 監査、コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、フローチャートの活用と実践、傾向分析
組織マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト組織計画 人材業務の実践、組織論の実践 - 要員調達 要員計画の策定、採用業務の実施、ネゴシエーション、調達 - チーム体制化 チーム構成作業の実施、一般的な管理業務の実施、適材配置の実践、チーム育成

対象スキル項目	関連する知識
コミュニケーションマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - コミュニケーション計画 コミュニケーション要件の把握、コミュニケーション技術の活用と実践 - 情報配布 コミュニケーションスキルの活用と実践、情報配布方法論の活用と実践 - 実績報告 進捗検証、予実分析、傾向分析、Earned Value 分析 - プロジェクト完了手続 プロジェクト実績報告、プロジェクト報告書の作成、プロジェクトプレゼンテーションの実施
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスクマネジメント計画策定 - リスク識別 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT 分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - 定性的リスク分析 リスク発生頻度と損害の大きさによる分析、リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分析 - 定量的リスク分析 情報収集技術(インタビュー)の活用と実践、重大性分析、デシジョンツリ分析、シミュレーションの実施 - リスク対応計画 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value分析
調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 調達計画 内製外製の分析、契約形態の選択、調達計画書の作成 - 引合計画 調達文書の作成、評価基準の設定、プロポーザルの受理 - 発注先選定 - 契約管理 契約業務の理解、契約条件の確認と合意、契約の締結、例外事項の処理、外注と OEM 契約業務の理解、関連法規の理解と遵守

対象スキル項目	関連する知識
ITソリューション設計・開発管理	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け - ソフトウェアエンジニアリング IT標準化手法、開発手法、開発支援ツール技術、プログラミング技術、テスト技法、再利用手法、セキュリティとプライバシー、セキュリティ対策ツールと手法、外部設計、内部設計、オブジェクト指向開発、プログラミング技術、デバッグ技法 - 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践 - 最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握

品質マネジメント（1コース）

- 品質マネジメント

コース名	品質マネジメント
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、中規模以上あるいは複雑度の高いプロジェクトにおいて、プロジェクトの成果物、プロジェクトのマネジメントそのものに対する顧客の品質要求を満たすための品質マネジメントプロセスの適用技法に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、プロジェクトマネジメントとして常に求められる「品質」に焦点を絞り、品質計画、品質保証、品質コントロール等の品質マネジメントプロセス、品質マネジメントツールと技法、品質マネジメントの成果物といった品質マネジメント全般について学習する。</p> <p>当コースは、講義形式による品質マネジメント理論の確認に加え、いかなる複雑度、難易度のプロジェクトにおいても常に顧客ニーズに合致した高い品質レベルを達成するための実践的な品質マネジメントをワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトリーダーとして、中規模以上または複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル5を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 2日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクト全工程における品質マネジメントを実施し、プロジェクト責任者として、プロジェクトを成功裡に完了できる。

対象スキル項目	関連する知識
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none">- 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用と実践、品質に関するコスト管理- 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践- 品質コントロール 監査、コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、フローチャートの活用と実践、傾向分析

リスクマネジメント (1コース)

- リスクマネジメント

コース名	リスクマネジメント
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、中規模以上あるいは複雑度の高いプロジェクトにおけるすべての局面において、プロジェクト目標にプラスやマイナスの影響を与えるであろう不確実な事象や状態をコントロールするためのリスクマネジメントプロセスの適用技法に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、リスクの識別、定量化、対応策の策定、リスク監視とリスクコントロールといったリスクマネジメントの基本プロセスと、フローチャート分析、シミュレーション、デシジョンツリー、コンテンツンシ計画などのリスクマネジメントツールと技法に関する内容を網羅しており、プロジェクト業務に影響を与える可能性のあるリスクの特定、リスク影響度合いの定量的評価、測定、対応策を含めたリスクマネジメント計画書の策定、状況変化に応じた継続的な対応といった、リスクマネジメントプロセス全般について学習する。</p> <p>当コースは、講義形式によるリスクマネジメント理論の確認に加え、実践的なリスクマネジメントについてワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトリーダーとして、中規模以上または複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル5を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクト全工程における様々なリスクマネジメントを実践し、プロジェクト責任者として、プロジェクトを成功裡に完了できる。

対象スキル項目	関連する知識
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスクマネジメント計画策定 - リスク識別 <ul style="list-style-type: none"> 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT 分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - 定性的リスク分析 <ul style="list-style-type: none"> リスク発生頻度と損害の大きさによる分析、リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分析 - 定量的リスク分析 <ul style="list-style-type: none"> 情報収集技術(インタビュー)の活用と実践、重大性分析、デシジョンツリ分析、シミュレーションの実施 - リスク対応計画 <ul style="list-style-type: none"> 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value分析

ファイナンシャルマネジメント（1コース）

- ファイナンシャルマネジメント

コース名	ファイナンシャルマネジメント
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、中規模以上あるいは複雑度の高いプロジェクトにおいて、予算、資源、コストの観点でプロジェクトを成功裡に実施するために必要となる財務管理プロセスと技法に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、プロジェクトマネジメントにあたっての財務上の責任、各種財務用語、財務データの導き方、財務分析ツールを活用したプロジェクトの選択と評価、プロジェクトにおけるファイナンシャルマネジメントの事例研究を網羅しており、プロジェクトを承認予算内で完了するために必要なプロジェクトのファイナンシャルマネジメントと、プロジェクトマネジメントへの財務データの活用などを学習する。</p> <p>当コースは、基本的財務知識、ファイナンシャルマネジメントのツール、技法を講義形式で学習するとともに、ワークショップ形式で実践的な学習を行う。また、受講者の財務知識水準の差異やスケジュールを考慮したうえでeラーニング形式での学習も可能である。</p>
受講対象者	プロジェクトリーダーとして、中規模以上または複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル5を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ または eラーニング
期間	標準日数 3日(クラスルーム)、または 標準時間 24時間 (eラーニング:1日 6時間×4日)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトにおける適切なファイナンシャルマネジメントを実施し、プロジェクト責任者として、プロジェクトを成功裡に実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
コストマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 資源計画 資源計画の検討と策定、代替案の定義 - コスト積算 トップダウンコスト見積の実施、ボトムアップコスト見積の実施、見積ツールの活用と実践、コスト見積方法論の活用と実践 - 予算設定 予算設定ツールと技術の活用と実践、コストベースラインの作成 - コストコントロール コスト変更管理の実施、進捗状況評価基準の把握と実践、EVM(Earned value management)の活用と実践、コストコントロールツールの活用と実践

調達マネジメント（1コース）

- 調達マネジメント

コース名	調達マネジメント
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、中規模以上あるいは複雑度の高いプロジェクトにおいて、プロジェクトニーズに応じた外部からの製品や役務の適切な調達に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは調達マネジメントの基本プロセスと、調達マネジメントツールと技法に関する内容を網羅しており、計画策定、引合の実施、発注先との契約、進捗管理、変更管理、契約完了までの一連の調達マネジメントプロセスを学習する。また調達における、例外的状況対応を学習する。</p> <p>当コースは、講義形式による調達マネジメント理論の確認に加え、実践的な調達マネジメントについてワークショップ形式で学習する。また、個別のテーマに分割して、一部をeラーニング形式で学習することも可能である。(例えば、「SOWの書き方」等)</p>
受講対象者	プロジェクトリーダーとして、中規模以上または複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル5を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトにおける適切な調達マネジメントを実施し、プロジェクト責任者として、プロジェクトを成功裡に実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
スコープマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - スコープ計画 スコープ記述書の策定、スコープマネジメント計画書の策定 - スコープ変更管理 スコープ変更、ベースライン文書の改訂
コストマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 資源計画 資源計画の検討と策定、代替案の定義 - コスト積算 トップダウンコスト見積の実施、ボトムアップコスト見積の実施、見積ツールの活用と実践、コスト見積方法論の活用と実践 - 予算設定 予算設定ツールと技術の活用と実践、コストベースラインの作成 - コストコントロール コスト変更管理の実施、進捗状況評価基準の把握と実践、EVM(Earned value management)の活用と実践、コストコントロールツールの活用と実践
組織マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 要員調達 要員計画の策定、採用業務の実施、ネゴシエーション、調達
コミュニケーションマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 実績報告 進捗検証、予実分析、傾向分析、Earned Value 分析
調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 調達計画 内製外製の分析、契約形態の選択、調達計画書の作成 - 引合計画と引合 調達文書の作成、評価基準の設定、プロポーザルの受理 - 発注先選定 - 契約管理 契約業務の理解、契約条件の確認と合意、契約の締結、例外事項の処理、外注と OEM 契約業務の理解、関連法規の理解と遵守

プロジェクトマネジメントの契約管理（1コース）

- プロジェクトマネジメントの契約管理

コース名	プロジェクトマネジメントの契約管理
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、お客様とのサービス契約を履行する為に必要となる契約関連知識とプロジェクト管理面での考慮点等について学習することを目的とする。</p> <p>当コースではサービス契約に関する一般知識、お客様との契約管理、取引先との契約管理、プロジェクトにおける契約管理などについて学習する。</p> <p>当コースは、eラーニング形式で学習する事を前提とするが、スキルの定着を促すため、クイズなどを併用する事が望ましい。</p>
受講対象者	プロジェクトリーダーとして、中規模以上のプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメントのレベル4を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」、「調達マネジメント」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 12時間 (eラーニング:1日6時間×2日)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトにおける適切な契約マネジメントを実施し、プロジェクト責任者として、プロジェクトを成功裡に実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
コミュニケーションマネジメント	- 実績報告 進捗検証、予実分析、傾向分析、Earned Value 分析
調達マネジメント	- 契約管理 契約業務の理解、契約条件の確認と合意、契約の締結、例外事項の処理、外注と OEM 契約業務の理解、関連法規の理解と遵守

最新技術動向 (1コース)

- 最新技術動向

<div style="text-align: right;">コース名</div> <div style="text-align: left;">研修コースの内容</div>	最新技術動向
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、日々変化していくITサービスを取りまく最新の技術動向を理解し、実際のビジネスで応用するための知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、国内外のIT市場規模、動向、現状と将来のIT技術、プラットフォーム、システム管理基盤、データベース、ネットワーク、分散コンピューティングシステム、セキュリティに関わる要素技術動向、アプリケーションに関わる技術動向、ビジネス特許に関わる技術動向、次世代のeビジネスとその発展などを学習する。</p> <p>当コースは、必要に応じた任意のテーマ毎に提供され、受講者は、自らのスキルの維持、向上を図るために定期的または必要に応じてテーマを選択し受講する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者、プロジェクトリーダー、プロジェクトメンバとして、諸技術に関する知識を更新する必要がある者
受講前提	IT技術に関する基礎知識を有すること
研修方法	講義
期間	標準日数 1日（クラスルーム）
研修修了後のスキル修得目標	最新技術に関する知識を活用し、プロジェクトメンバとして、開発、運用、保守などのプロジェクトを実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
ITソリューション設計・開発管理	<ul style="list-style-type: none">- 最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握- 最新IT市場動向 国内外のIT市場規模と動向の把握、アプリケーションに関わる技術動向の把握、ビジネス特許に関わる技術動向の把握、次世代のeビジネスとその発展の把握

プロジェクトマネジメント最新動向

(1コース)

- プロジェクトマネジメント最新動向

コース名 研修コースの内容	プロジェクトマネジメント最新動向
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、常に質の高いプロジェクトマネジメントを継続して実施するために、顧客のIT環境、ビジネス環境に最も適した手法を適用するためのプロジェクトマネジメントの最新動向に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、プロジェクトマネジメントについての最新ニュースやトピックス、先進的な技術領域、ビジネス領域に対するプロジェクトマネジメントの考え方、プロジェクトマネジメントが顧客企業経営者から今何を求められているか、更には最新のプロジェクトマネジメント事例研究などを学習する。</p> <p>当コースは、毎年一回程度を目安にeラーニング形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクトリーダーまたはプロジェクト責任者として、プロジェクトマネジメントの最新情報を実際のプロジェクトに活用していく必要のある者(プロジェクトマネジメントのレベル4、5、6を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 3時間 (1日6時間×0.5日)
研修修了後のスキル修得目標	プロジェクトマネジメントに関する最新情報を活用して、プロジェクト責任者またはプロジェクトリーダーとして、プロジェクトの全工程を成功裡に実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト計画の策定 プロジェクト計画メソッドの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクト計画書の策定 - プロジェクト計画の実施 一般的な管理スキルの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、承認プロセスの把握、進捗管理会議運営、組織の手続きの把握 - 統合変更管理 変更管理、構成管理、プロジェクト進捗評価基準の活用と実践、プロジェクト計画書更新版の策定
スコープマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト開始 プロジェクト憲章の策定、プロジェクトマネージャの選定と任命、制約条件と前提条件の把握 - スコープ計画 スコープ記述書の策定、スコープマネジメント計画書の策定 - スコープ定義 WBSの作成、スコープ記述書更新版の策定 - スコープ検証 - スコープ変更管理 スコープ変更、ベースライン文書の改訂
タイムマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 作業定義 作業の細分化と詳細化、作業項目リストの作成、WBS更新版の作成 - 作業順序設定 PDM(Precedence diagramming method)、ADM(Arrow diagramming method)、Conditional diagramming method、プロジェクトネットワーク図の作成、作業項目リストの作成 - 作業所要時間見積 所要時間見積、作業項目リストの作成 - スケジュール開発と管理 数学的分析(Critical Path Method、PERT等)、所要時間の短縮、シミュレーションの実施、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクトスケジュールの作成、スケジュールマネジメント計画書の作成、スケジュール変更管理

対象スキル項目	関連する知識
コストマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 資源計画 資源計画の検討と策定、代替案の定義 - コスト積算 トップダウンコスト見積の実施、ボトムアップコスト見積の実施、見積ツールの活用と実践、コスト見積方法論の活用と実践 - 予算設定 予算設定ツールと技術の活用と実践、コストベースラインの作成 - コストコントロール コスト変更管理の実施、進捗状況評価基準の把握と実践、EVM(Earned value management)の活用と実践、コストコントロールツールの活用と実践
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用と実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践 - 品質コントロール 監査、コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、フローチャートの活用と実践、傾向分析
組織マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト組織計画 人材業務の実践、組織論の実践 - 要員調達 要員計画の策定、採用業務の実施、ネゴシエーション、調達 - チーム体制化 チーム構成作業の実施、一般的な管理業務の実施、適材配置の実践、チーム育成

対象スキル項目	関連する知識
コミュニケーションマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - コミュニケーション計画 コミュニケーション要件の把握、コミュニケーション技術の活用と実践 - 情報配布 コミュニケーションスキルの活用と実践、情報配布方法論の活用と実践 - 実績報告 進捗検証、予実分析、傾向分析、Earned Value 分析 - プロジェクト完了手続 プロジェクト実績報告、プロジェクト報告書の作成、プロジェクトプレゼンテーションの実施
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスクマネジメント計画策定 - リスク識別 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT 分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - 定性的リスク分析 リスク発生頻度と損害の大きさによる分析、リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分析 - 定量的リスク分析 情報収集技術(インタビュー)の活用と実践、重大性分析、デシジョンツリ分析、シミュレーションの実施 - リスク対応計画 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value分析
調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 調達計画 内製外製の分析、契約形態の選択、調達計画書の作成 - 引合計画と引合 調達文書の作成、評価基準の設定、プロポーザルの受理 - 発注先選定 - 契約管理 契約業務の理解、契約条件の確認と合意、契約の締結、例外事項の処理、外注と OEM 契約業務の理解、関連法規の理解と遵守

最新ビジネス動向（1コース）

- 最新ビジネス動向

<div style="text-align: right;">コース名</div> <div style="text-align: left;">研修コースの内容</div>	最新ビジネス動向
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、日々変化していくビジネスの最新動向に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、主要な業界の経営課題や最新動向、トピックス、国内外のIT市場の動向、主要な技術動向等のテーマ毎に提供され、受講者は、自らのスキルの維持、向上を図るために定期的または必要に応じてテーマを選択し受講する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者、プロジェクトリーダー、プロジェクトメンバとして、担当するプロジェクトに関わる顧客の経営環境等を把握するために、ビジネス動向に関する知識を更新する必要がある者
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、またはeラーニング
期間	標準日数 0.5日（クラスルーム）、または標準時間 3時間（eラーニング 1日 3時間×0.5日）
研修修了後のスキル修得目標	ビジネスの最新動向に関する知識を活用し、プロジェクト責任者、プロジェクトリーダーまたはプロジェクトメンバとして、顧客の経営課題を理解することができる。

対象スキル項目	関連する知識
ITソリューション設計・開発管理	- 最新IT市場動向 国内外のIT市場規模と動向の把握、アプリケーションに関わる技術動向の把握、ビジネス特許に関わる技術動向の把握、次世代のeビジネスとその発展の把握
テクノロジー	- 情報化と経営 情報戦略、企業会計、経営工学、エンジニアリングシステム分野とビジネスシステム分野における情報システムの活用、関連法規の理解と遵守

インダストリアプリケーション動向

(1コース)

- インダストリアプリケーション動向

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	インダストリアプリケーション動向
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、日々変化していくインダストリアプリケーションに関する知識を最新に保つために、各インダストリにおける最新の動向や、現在注目を集めているアプリケーション、ソリューションに関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、対象とするインダストリ、またはアプリケーション、ソリューションのテーマ毎に提供され、受講者は、自らのスキルの維持、向上を図るために定期的または必要に応じてテーマを選択し受講する。</p> <p>当コースはeラーニング形式による提供も可能であるが、講義形式によってアプリケーションの実演などを行うことが望ましい。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者、プロジェクトリーダー、プロジェクトメンバとして、現在関わりのある業界や、今後関係する業界に関する知識、またその業界で使用されるアプリケーションなどに関する知識を更新する必要がある者
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、またはeラーニング
期間	標準日数 2日(クラスルーム)、または標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×2日)
研修修了後の スキル修得目標	インダストリアプリケーションに関する知識を活用し、プロジェクト責任者、プロジェクトリーダーまたはプロジェクトメンバとして、開発、運用、保守などのプロジェクトを実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
IT ソリューション設計・開発管理	- インダストリ知識 インダストリ共通アプリケーションに関する知識の活用、インダストリ固有アプリケーションに関する知識の活用、インダストリビジネス動向の把握、インダストリ技術動向の把握、インダストリ競合状況の把握、インダストリ用語の把握と活用、関連法規の把握と活用、インダストリ別事業環境の把握と活用、インダストリ別ビジネス慣行の把握と活用、インダストリ固有業務内容の把握と活用

コミュニティ活動（1コース）

- コミュニティ活動

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	コミュニティ活動
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>コミュニティ活動は、いわゆる研修とは異なり、社内組織上のラインにとらわれずに、プロフェッショナル同士が自らのスキルを切磋琢磨し、後進育成にも貢献していく社内、社外での諸活動をいう。コミュニティ活動には、社外のものとしては学会や各種団体(任意も含めて)があり、社内のものとしては社内プロフェッショナル認定制度などで認定を受けたなどの者からなる枠組みがある。これらコミュニティは、同一職種で構成されることが基本となる</p> <p>ハイレベルのスキルを持つ人材は、研修という枠組みで教えられるという段階を超え、コミュニティ活動を通し、他のハイレベルのプロフェッショナルとの情報交換やディスカッションを通じて研鑽を重ねる。</p> <p>後進育成においても、ハイレベルのスキルに基づく論文発表や講演を通じた貢献を図る。また、特に社内のコミュニティ活動を通しては、人事、教育訓練制度の設計、構築、実行をリードし、現場のプロの立場でビジネス戦略と結びついた人材育成戦略の実現に貢献する。</p>
受講対象者	
受講前提	
研修方法	
期間	
研修修了後の スキル修得目標	

プロジェクトマネジメント研修コースの内容

< 専門分野別選択 >

**プロジェクトマネジメント方法論(システム開発 /
アプリケーション開発 / システムインテグレーション) (1コース)**

()内は対応する専門分野

**プロジェクトマネジメント方法論
(システム開発 / アプリケーション開発 / システムインテグレーション)**

研修コースの内容 コース名	プロジェクトマネジメント方法論(システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション)
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、システム開発、アプリケーション開発、システムインテグレーションのプロジェクトマネジメントに必要となる、情報システム開発の方法論に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースは、ウォーターフォールモデル、スパイラルモデル、プロトタイプモデルなどのシステム開発ライフサイクルモデル、POA(Process Oriented Approach)、DOA(Data Oriented Approach)、オブジェクト指向開発などの開発方法論、開発言語、ツール、見積手法等に関する内容を網羅しており情報システム開発プロジェクトにおいて適用するソフトウェアエンジニアリングの基礎的な理論とツール、技法などを学習する。</p> <p>コース前半は、情報システム開発方法論に関する基礎知識をeラーニング形式で学習する。後半は、実際のプロジェクトへの適用方法について講義形式とワークショップ形式で適用事例を交えて実践的に学習する。</p>
受講対象者	システム開発等に関するプロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参加した経験を持つ者(プロジェクトマネジメント(専門分野:システム開発、アプリケーション開発、システムインテグレーション)のレベル4を目指す者)
受講前提	「システム設計」「システム構築」「システム保守/運用」「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、講義、ワークショップ
期間	前半:標準時間 18時間 (eラーニング 1日 6時間×3日)、後半:標準日数 2日 (クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	ソフトウェアエンジニアリングの技法を活用しシステム開発方針を決定し、プロジェクトリーダーとして、ITソリューションの設計、開発管理をリードして、成功裡にプロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
ITソリューション設計・開発管理	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け - ソフトウェアエンジニアリング IT標準化手法、開発手法、開発支援ツール技術、プログラミング技術、テスト技法、再利用手法、セキュリティとプライバシー、セキュリティ対策ツールと手法、外部設計、内部設計、オブジェクト指向開発、プログラミング技術、デバッグ技法 - 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践 - 最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握

DOA 構造化手法 (1コース)

()内は対応する専門分野

- DOA 構造化手法(システム開発 / アプリケーション開発 / システム
インテグレーション)

コース名	DOA 構造化手法
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、システム開発、アプリケーション開発、システムインテグレーションの設計時に必要となる、DOA 構造化手法に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>適用業務開発の要件定義、設計を進める上で必須となる DOA について学習し、また DOA を構成する手法について理解する事を目的とする。</p> <p>コース前半は、情報システム開発方法論に関する基礎知識をeラーニング形式で学習する。後半は、実際のプロジェクトへの適用方法について講義形式とワークショップ形式で適用事例を交えて実践的に学習する。</p>
受講対象者	システム開発等に関するプロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参加した経験を持つ者(プロジェクトマネジメント(専門分野:システム開発、アプリケーション開発、システムインテグレーション)のレベル4を目指す者)
受講前提	「システム設計」「システム構築」「システム保守/運用」「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	前半:標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×2日)
研修修了後のスキル修得目標	DOA 構造化手法を活用しプロジェクトリーダとして、要件定義、設計の開発局面をリードして、成功裡にプロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
ITソリューション設計・開発管理	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - 設計手法 オブジェクト指向設計、構造化設計、データ中心型設計 - 外部設計 外部設計の手順、システム機能設計、データモデルの設計、外部設計書の作成 - DOA 手法の実践 DFD、データディクショナリ

プロジェクトマネジメント方法論(ネットワークサービス) (1コース)

()内は対応する専門分野

- プロジェクトマネジメント方法論(ネットワークサービス)

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	プロジェクトマネジメント方法論(ネットワークサービス)
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、ネットワークサービスのプロジェクトマネジメントに必要となる、ネットワークサービスの方法論に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、ネットワークシステムの主要技術と機能、ネットワークシステムの設計、構築、運用の各フェーズにおける主要業務プロセスと手法、ネットワークサービスプロジェクトの契約形態別(支援型、請負型)特徴と契約管理上の考慮点などを学習する。</p> <p>当コースは、実際のプロジェクトへの適用方法と各種考慮点について講義形式とワークショップ形式で適用事例を交えて実践的に学習する。</p>
受講対象者	システム開発等に関するプロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を持つ者(プロジェクトマネジメント(専門分野:ネットワークサービス)のレベル4を目指す者)
受講前提	「システム設計」「システム構築」「システム保守/運用」「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 2日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	ネットワークシステムの技術的知識と方法論を活用し、ネットワークプロジェクトリーダーとして、通信環境の設計、構築、運用管理をリードして、成功裡にプロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
通信環境設計・運用管理	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け - 通信業界動向の把握 - ネットワーク機器関連知識の活用と実践 - ネットワーク管理技術の活用と実践 - ネットワークプロトコル関連知識の活用と実践 - ネットワーク技術の理解と活用 プロトコルと伝送制御、符号化と伝送、ネットワーク関連法規、ネットワークセキュリティ、通信機器、インターネット、ネットワークソフト、回線に関する技術(ATM (Asynchronous Transfer Mode)、フレームリレーやLAN、WANなど)、TCP/IP - ネットワークシステムの実装技術 ネットワークプロトコル、電気通信サービス、ネットワーク機器と装置、ネットワークサービス、イントラネットやエクストラネット - ネットワークシステムの運用、保守、管理 ユーザ対応、保守または更新の方針と計画作成、保守または更新の実施、バックアップとデータ回復、ネットワークシステム構成管理、ネットワークシステムの監視、システムの性能分析、セキュリティ侵害の分析と対応、障害の分析 - ネットワークシステムの評価 モニタリング手法の活用と実践、トラフィック計測と分析、シミュレーション手法の活用と実践、性能解析手法の活用と実践 - 技術検証手法の活用と実践 プロトタイプング、シミュレーション - ネットワークモデリング技法 レイヤ定義、プロトコル定義 - ネットワーク標準 ネットワーク標準の把握、適用 - 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践

ネットワークプロジェクトマネジメント事例

(1コース)

()内は対応する専門分野

- **ネットワークプロジェクトマネジメント事例**(ネットワークサービス)

コース名	ネットワークプロジェクトマネジメント事例
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、ネットワークサービスに関連するプロジェクトマネジメントの事例を通じてネットワークプロジェクトを成功裏に導く為の考慮事項を学習する事を目的とする。</p> <p>ネットワークプロジェクトの構築、管理の事例をテーマとしてプロジェクトの成功要因、ネットワークプロジェクト特有の考慮事項などの知識を修得する。</p>
受講対象者	ネットワーク構築に関するプロジェクトメンバ、またはリーダーとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を持つ者(プロジェクトマネジメント(専門分野: ネットワークサービス)のレベル5を目指す者)
受講前提	「ネットワークサービス方法論」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 3時間 (eラーニング:1日6時間×0.5日)
研修修了後のスキル修得目標	ネットワークサービス構築の実践的知識を活用し、ネットワークプロジェクトリーダーとして、成功裏にネットワークプロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
通信環境設計・運用管理	<ul style="list-style-type: none"> - 通信業界動向の把握 - ネットワーク管理技術の活用と実践 - ネットワークシステムの運用、保守、管理 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ対応、保守と更新の方針と計画作成、保守と更新の実施、バックアップとデータ回復、ネットワークシステム構成管理、ネットワークシステムの監視、システムの性能分析、セキュリティ侵害の分析と対応、障害の分析 - ネットワークシステムの評価 <ul style="list-style-type: none"> モニタリング手法の活用と実践、トラフィック計測と分析、シミュレーション手法の活用と実践、性能解析手法の活用と実践 - ネットワーク標準 <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク標準の把握と適用 - 技術問題解決手法 <ul style="list-style-type: none"> 技術問題解決手法の活用と実践

プロジェクトマネジメント方法論(ソフトウェア製品開発)

(1コース)

()内は対応する専門分野

- プロジェクトマネジメント方法論(ソフトウェア製品開発)

コース名	プロジェクトマネジメント方法論(ソフトウェア製品開発方法論)
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、ソフトウェア製品開発のプロジェクトマネジメントに必要となる、ソフトウェア製品開発の方法論に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、IPD(Integrated Product Development)方法論の管理プロセス、ツール、技法、知的資産、特許、ソフトウェア製品関連知識等に関する内容を網羅しており、ソフトウェア製品開発の計画、要件定義、設計、開発、テスト、導入等一連の局面における適用方法を学習する。</p> <p>当コースは、IPD 手法によるプロジェクトマネジメント理論を講義形式で学習することに加え、適用方法、適用事例を中心にワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品設計、開発に関するプロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を持つ者(プロジェクトマネジメント(専門分野:ソフトウェア開発)のレベル4を目指す者)
受講前提	「システム設計」「システム構築」「システム保守/運用」「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 5日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	ソフトウェア製品開発方法論を活用し、プロジェクトリーダーとして、新規ソフトウェア、既存ソフトウェアの設計、開発管理をリードして、成功裡にプロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
新規ソフトウェア開発・既存ソフトウェア改良	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け - 知的資産の管理と活用 知的資産のデータベース化(付加価値、構造化、共有化)、知的資産の活用、知的資産の維持と管理、効果の把握と改善の実施、ビジネスモデル特許 - ソフトウェア開発テクニックの活用と実践 - 顧客環境管理 - ソフトウェア製品、パッケージソフトウェア関連知識の活用と実践 - ソフトウェアエンジニアリング IT標準化手法、開発手法、開発支援ツール技術、プログラミング技術、テスト技法、再利用手法、セキュリティとプライバシー、セキュリティ対策ツールと手法、外部設計、内部設計、オブジェクト指向開発、プログラミング技術、デバッグ技法 - 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践

ソフトウェア開発プロジェクトマネジメント (1コース)

()内は対応する専門分野

- ソフトウェア開発プロジェクトマネジメント(ソフトウェア製品開発)

コース名	ソフトウェア開発プロジェクトマネジメント
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、ソフトウェア製品開発のプロジェクトマネジメントに必要となる、ソフトウェア製品開発の方法論について実践的な知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、IPD(Integrated Product Development)方法論に基づくソフトウェア製品開発管理プロセス、ツール、技法、等に関する知識を活用し、チームとしてソフトウェア製品開発の計画、要件定義、設計、開発、テスト、導入等一連の局面におけるプロセスと製品の整合性を保つ活動などについて学習する。またIPDプロセスにおけるプロジェクトマネジメントの役割と権限について理解し、懸案事項や問題解決にあたりリーダーシップを発揮できる能力を身につける。</p> <p>当コースは、IPD 手法によるプロジェクトマネジメント理論を講義形式で学習することに加え、適用方法、適用事例を中心にワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品設計、開発に関するプロジェクトメンバとして、複数回のプロジェクトに参画した経験を持つ者(プロジェクトマネジメント(専門分野:ソフトウェア開発)のレベル5を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント方法論(ソフトウェア製品開発)」を修了していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 5日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	ソフトウェア製品開発方法論を活用し、プロジェクト責任者またはリーダーとして、新規ソフトウェア、既存ソフトウェアの設計、開発管理をリードして、成功裡にプロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト計画の策定 プロジェクト計画メソッドの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクト計画書の策定 - 統合変更管理 変更管理、構成管理、プロジェクト進捗評価基準の活用と実践、プロジェクト計画書更新版の策定
スコープマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト開始 プロジェクト憲章の策定、プロジェクトマネージャの選定と任命、制約条件と前提条件の把握 - スコープ計画 スコープ記述書の策定、スコープマネジメント計画書の策定 - スコープ定義 WBS の作成、スコープ記述書更新版の策定 - スコープ変更管理 スコープ変更、ベースライン文書の改訂
タイムマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 作業定義 作業の細分化と詳細化、作業項目リストの作成、WBS 更新版の作成 - 作業所要時間見積 所要時間見積、作業項目リストの作成 - スケジュール開発と管理 数学的分析(Critical Path Method、PERT等)、所要時間の短縮、シミュレーションの実施、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクトスケジュールの作成、スケジュールマネジメント計画書の作成、スケジュール変更管理
コストマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 資源計画 資源計画の検討と策定、代替案の定義 - コスト積算 トップダウンコスト見積の実施、ボトムアップコスト見積の実施、見積ツールの活用と実践、コスト見積方法論の活用と実践 - 予算設定 予算設定ツールと技術の活用と実践、コストベースラインの作成 - コストコントロール コスト変更管理の実施、進捗状況評価基準の把握と実践、EVM(Earned value management)の活用と実践、コストコントロールツールの活用と実践

対象スキル項目	関連する知識
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスク識別 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT 分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - 定量的リスク分析 情報収集技術(インタビュー)の活用と実践、重大性分析、デシジョンツリ分析、シミュレーションの実施 - リスク対応計画 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value 分析
新規ソフトウェア開発・既存ソフトウェア改良	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け - 知的資産の管理と活用 知的資産のデータベース化(付加価値、構造化、共有化)、知的資産の活用、知的資産の維持と管理、効果の把握と改善の実施、ビジネスモデル特許 - ソフトウェア開発テクニックの活用と実践 - 顧客環境管理 - ソフトウェア製品、パッケージソフトウェア関連知識の活用と実践 - ソフトウェアエンジニアリング IT標準化手法、開発手法、開発支援ツール技術、プログラミング技術、テスト技法、再利用手法、セキュリティとプライバシー、セキュリティ対策ツールと手法、外部設計、内部設計、オブジェクト指向開発、デバッグ技法 - 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践

eビジネスソリューション開発方法論 (1コース)

()内は対応する専門分野

- eビジネスソリューション開発方法論(eビジネスソリューション)

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	eビジネスソリューション開発方法論
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、eビジネスソリューションのプロジェクトマネジメントに必要となる、プロジェクトマネジメント手法や考慮点に関する基礎的な知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、eビジネスソリューションの定義と戦略、eビジネスソリューション開発におけるプロジェクトマネジメントの重要成功要因、eビジネスソリューションアーキテクチャとインフラストラクチャ、eビジネスアプリケーション開発プロセス、eビジネスアプリケーションのテスト技法とツール、eビジネスソリューションの見積り技法、スケジュール管理上の考慮点、eビジネス特有のリスク管理手法等の内容を網羅しており、短期開発、先進的ソリューション、大規模、複数プラットフォームといった複雑、高度な要件の多いeビジネスソリューションにおけるプロジェクトマネジメント手法の適用方法について学習する。</p> <p>当コースは、eビジネスプロジェクトマネジメント理論を講義形式で学習することに加え、適用方法、適用事例を中心にワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として複数回のプロジェクトを実施した経験、実績を持つ者(プロジェクトマネジメント(専門分野:eビジネスソリューション)のレベル6を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	eビジネス特有の考慮点や管理手法を活用して、大規模で複雑高度な要件が求められるeビジネスソリューション開発プロジェクトの責任者として、プロジェクトを成功裡に実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
<p>スコープマネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト開始 プロジェクト憲章の策定、プロジェクトマネジャの選定と任命、制約条件と前提条件の把握 - スコープ計画 スコープ記述書の策定、スコープマネジメント計画書の策定 - スコープ定義 WBS の作成、スコープ記述書更新版の策定 - スコープ検証 - スコープ変更管理 スコープ変更、ベースライン文書の改訂
<p>タイムマネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 作業定義 作業の細分化と詳細化、作業項目リストの作成、WBS 更新版の作成 - 作業順序設定 PDM(Precedence diagramming method)、ADM(Arrow diagramming method)、Conditional diagramming method、プロジェクトネットワーク図の作成、作業項目リストの作成 - 作業所要時間見積 所要時間見積、作業項目リストの作成 - スケジュール開発と管理 数学的分析(Critical Path Method、PERT等)、所要時間の短縮、シミュレーションの実施、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクトスケジュールの作成、スケジュールマネジメント計画書の作成、スケジュール変更管理

対象スキル項目	関連する知識
コストマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 資源計画 資源計画の検討と策定、代替案の定義 - コスト積算 トップダウンコスト見積の実施、ボトムアップコスト見積の実施、見積ツールの活用と実践、コスト見積方法論の活用と実践 - 予算設定 予算設定ツールと技術の活用と実践、コストベースラインの作成 - コストコントロール コスト変更管理の実施、進捗状況評価基準の把握と実践、EVM(Earned value management)の活用と実践、コストコントロールツールの活用と実践
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスクマネジメント計画策定 - リスク識別 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - 定性的リスク分析 リスク発生頻度と損害の大きさによる分析、リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分析 - 定量的リスク分析 情報収集技術(インタビュー)の活用と実践、重大性分析、デシジョンツリ分析、シミュレーションの実施 - リスク対応計画 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value分析

対象スキル項目	関連する知識
eビジネスソリューション設計・開発管理	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け - eビジネスソリューションの実践 <ul style="list-style-type: none"> - セキュリティシステムの実装、検査 セキュリティ製品またはツールの選定と導入、セキュリティシステムの開発、セキュリティ技術の実装 - 収支管理 - グローバリゼーション 国際標準対応、業界標準対応、地域または国毎の関連法規や規定規格への対応、マルチ言語対応、標準やアーキテクチャ(Unicode、POSIX定義の国際化モデル、Character Data Representation Architecture など)、国際化(言語や文化に依存しない共通化された設計と実装)、地域化(言語や文化に依存する部分の設計と実装) - 危機管理の実践 - eビジネス開発の実施 <ul style="list-style-type: none"> プロトタイピング、eビジネス開発上のリスク要因、スケジューリング、開発要員、ネーミング、開発標準、画面体系、URL 構造 - 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践

eビジネスソリューションプロジェクトマネジメント (1コース)

()内は対応する専門分野

- eビジネスソリューションプロジェクトマネジメント(eビジネスソリューション)

コース名	eビジネスソリューションプロジェクトマネジメント
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、eビジネスソリューション開発プロジェクトにおいて必要となる、プロジェクトマネジメント手法や考慮点に関する実践的な知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、eビジネスソリューションの定義と戦略、eビジネスソリューション開発の計画に関する考慮点、eビジネスソリューションの見積り技法、スケジュール管理上の考慮点、eビジネス特有のリスク管理手法等の内容を網羅しており、短期開発、先進的ソリューション、大規模、複数プラットフォームといった複雑、高度な要件の多いeビジネスソリューションにおけるプロジェクトマネジメント手法の適用方法について学習する。</p> <p>当コースは、eビジネスプロジェクトマネジメント理論を講義形式で学習することに加え、適用方法、適用事例を中心にワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として複数回のプロジェクトを実施した経験、実績を持つ者(プロジェクトマネジメント(専門分野:eビジネスソリューション)のレベル6を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」、「eビジネスソリューション開発方法論(eビジネスソリューション)」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 3日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	eビジネス特有の考慮点や管理手法を活用して、大規模で複雑高度な要件が求められるeビジネスソリューション開発プロジェクトの責任者として、プロジェクトを成功裡に実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
<p>スコープマネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト開始 プロジェクト憲章の策定、プロジェクトマネジャの選定と任命、制約条件と前提条件の把握 - スコープ計画 スコープ記述書の策定、スコープマネジメント計画書の策定 - スコープ定義 WBS の作成、スコープ記述書更新版の策定 - スコープ検証 - スコープ変更管理 スコープ変更、ベースライン文書の改訂
<p>タイムマネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 作業定義 作業の細分化と詳細化、作業項目リストの作成、WBS 更新版の作成 - 作業順序設定 PDM(Precedence diagramming method)、ADM(Arrow diagramming method)、Conditional diagramming method、プロジェクトネットワーク図の作成、作業項目リストの作成 - 作業所要時間見積 所要時間見積、作業項目リストの作成 - スケジュール開発と管理 数学的分析(Critical Path Method、PERT等)、所要時間の短縮、シミュレーションの実施、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクトスケジュールの作成、スケジュールマネジメント計画書の作成、スケジュール変更管理

対象スキル項目	関連する知識
コストマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 資源計画 資源計画の検討と策定、代替案の定義 - コスト積算 トップダウンコスト見積の実施、ボトムアップコスト見積の実施、見積ツールの活用と実践、コスト見積方法論の活用と実践 - 予算設定 予算設定ツールと技術の活用と実践、コストベースラインの作成 - コストコントロール コスト変更管理の実施、進捗状況評価基準の把握と実践、EVM(Earned value management)の活用と実践、コストコントロールツールの活用と実践
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスクマネジメント計画策定 - リスク識別 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - 定性的リスク分析 リスク発生頻度と損害の大きさによる分析、リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分析 - 定量的リスク分析 情報収集技術(インタビュー)の活用と実践、重大性分析、デシジョンツリ分析、シミュレーションの実施 - リスク対応計画 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value分析

対象スキル項目	関連する知識
eビジネスソリューション設計・開発管理	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け - eビジネスソリューションの実践 - セキュリティシステムの実装、検査 セキュリティ製品またはツールの選定と導入、セキュリティシステムの開発、セキュリティ技術の実装 - 収支管理 - グローバリゼーション 国際標準対応、業界標準対応、地域または国毎の関連法規や規定規格への対応、マルチ言語対応、標準やアーキテクチャ(Unicode、POSIX定義の国際化モデル、Character Data Representation Architecture など)、国際化(言語や文化に依存しない共通化された設計と実装)、地域化(言語や文化に依存する部分の設計と実装) - 危機管理の実践 - eビジネス開発の実施 プロトタイピング、eビジネス開発上のリスク要因、スケジューリング、開発要員、ネーミング、開発標準、画面体系、URL 構造 - 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践

アウトソーシングプロジェクトマネジメントのための システム運用管理方法論(1コース)

()内は対応する専門分野

- アウトソーシングプロジェクトマネジメントのためのシステム運用管理方法論
(アウトソーシング)

コース名	アウトソーシングプロジェクトマネジメントのためのシステム運用管理方法論
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、アウトソーシングのプロジェクトマネジメントに必要となる、情報システム運用管理方法論に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、システム運用管理方法論に関する知識領域を網羅しており、情報システムの計画、管理やシステム開発からサービス水準管理、資源管理、資産管理、運用管理、報告管理等に至るまでの運用全般について学習する。</p> <p>当コースは、適用方法、適用事例を中心にワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、中規模以上で複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:アウトソーシング)のレベル6を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 3日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	情報システム管理メソッドロジを活用し、アウトソーシングプロジェクトのプロジェクト責任者として、アウトソーシング関連プロジェクトを遂行できる。

対象スキル項目	関連する知識
情報システム管理	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義技法 <ul style="list-style-type: none"> 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け - システム管理体系 <ul style="list-style-type: none"> 組織と役割の設定、業務フローの策定、業務標準の策定、管理体制の確立 - ユーザ部門との関係管理 <ul style="list-style-type: none"> ユーザおよび経営者の要望把握 - 情報システム計画 <ul style="list-style-type: none"> システム化戦略の策定、システム化計画の策定 - システム開発 <ul style="list-style-type: none"> システム開発計画の策定と実施 - 本番システムへの適用 <ul style="list-style-type: none"> システム移行計画の策定と実施 - 情報サービスの支援 <ul style="list-style-type: none"> 品質管理 - 情報サービスの提供 <ul style="list-style-type: none"> システム運用 - 情報資源の管理 <ul style="list-style-type: none"> 情報システム資産計画策定と管理 - 技術問題解決手法 <ul style="list-style-type: none"> 技術問題解決手法の活用と実践 - 最新技術動向 <ul style="list-style-type: none"> 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握

アウトソーシングビジネスのプロジェクトマネジメント (3コース)

()内は対応する専門分野

- アウトソーシングプロジェクトマネジメント概説(アウトソーシング)
- アウトソーシングプロジェクトマネジメント実践(アウトソーシング)
- アウトソーシングプロジェクトマネジメントのための会計・経営管理概説
(アウトソーシング)

コース名 研修コースの内容	アウトソーシングビジネスのプロジェクトマネジメント：アウトソーシングプロジェクトマネジメント概説
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、アウトソーシングプロジェクトを専門に担当するために、理解しておくべきアウトソーシングビジネスにおけるプロジェクトマネジメントの概要と特徴に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、アウトソーシングビジネスの概要、契約形態、アウトソーシングプロジェクトマネジメント職種の責任と役割、アウトソーシングプロジェクトマネジメントのプロセス、サービス水準管理(SLA : Service Level Agreement)、資源管理、資産管理、運用管理、報告管理といったビジネス管理項目等の内容を網羅しており、アウトソーシングプロジェクトを成功裏に導くためのビジネスの理解を深め各種考慮点について学習する。</p> <p>当コースは、アウトソーシングプロジェクトマネジメントに関する広範な要素を講義形式およびワークショップ形式で大局的に学習する。</p>
受講対象者	<p>プロジェクト責任者として、中規模以上で複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:アウトソーシング)のレベル6を目指す者)</p> <p>なお、プロジェクトメンバとしてアウトソーシングの実務経験を有することが望ましい</p>
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 2日 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	アウトソーシングビジネスの概要と基本的知識を理解し、アウトソーシングプロジェクトのプロジェクト責任者として、顧客企業にとって極めて戦略的な意味を持つアウトソーシングプロジェクトの実施、運営に役立てることができる。

対象スキル項目	関連する知識
統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト計画の策定 プロジェクト計画メソッドの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクト計画書の策定 - プロジェクト計画の実施 一般的な管理スキルの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、承認プロセスの把握、進捗管理会議運営、組織の手続きの把握 - 統合変更管理 変更管理、構成管理、プロジェクト進捗評価基準の活用と実践、プロジェクト計画書更新版の策定
スコープマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト開始 プロジェクト憲章の策定、プロジェクトマネージャの選定と任命、制約条件と前提条件の把握 - スコープ計画 スコープ記述書の策定、スコープマネジメント計画書の策定 - スコープ定義 WBSの作成、スコープ記述書更新版の策定 - スコープ検証 - スコープ変更管理 スコープ変更、ベースライン文書の改訂
タイムマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 作業定義 作業の細分化と詳細化、作業項目リストの作成、WBS更新版の作成 - 作業順序設定 PDM(Precedence diagramming method)、ADM(Arrow diagramming method)、Conditional diagramming method、プロジェクトネットワーク図の作成、作業項目リストの作成 - 作業所要時間見積 所要時間見積、作業項目リストの作成 - スケジュール開発と管理 数学的分析(Critical Path Method、PERT等)、所要時間の短縮、シミュレーションの実施、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクトスケジュールの作成、スケジュールマネジメント計画書の作成、スケジュール変更管理

対象スキル項目	関連する知識
コストマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 資源計画 資源計画の検討と策定、代替案の定義 - コスト積算 トップダウンコスト見積の実施、ボトムアップコスト見積の実施、見積ツールの活用と実践、コスト見積方法論の活用と実践 - 予算設定 予算設定ツールと技術の活用と実践、コストベースラインの作成 - コストコントロール コスト変更管理の実施、進捗状況評価基準の把握と実践、EVM(Earned value management)の活用と実践、コストコントロールツールの活用と実践
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用と実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践 - 品質コントロール 監査、コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、フローチャートの活用と実践、傾向分析
組織マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト組織計画 人材業務の実践、組織論の実践 - 要員調達 要員計画の策定、採用業務の実施、ネゴシエーション、調達 - チーム体制化 チーム構成作業の実施、一般的な管理業務の実施、適材配置の実践、チーム育成

対象スキル項目	関連する知識
コミュニケーションマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - コミュニケーション計画 コミュニケーション要件の把握、コミュニケーション技術の活用と実践 - 情報配布 コミュニケーションスキルの活用と実践、情報配布方法論の活用と実践 - 実績報告 進捗検証、予実分析、傾向分析、Earned Value 分析 - プロジェクト完了手続 プロジェクト実績報告、プロジェクト報告書の作成、プロジェクトプレゼンテーションの実施
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスクマネジメント計画策定 - リスク識別 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT 分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - 定性的リスク分析 リスク発生頻度と損害の大きさによる分析、リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分析 - 定量的リスク分析 情報収集技術(インタビュー)の活用と実践、重大性分析、デシジョンツリ分析、シミュレーションの実施 - リスク対応計画 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value分析
調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 調達計画 内製外製の分析、契約形態の選択、調達計画書の作成 - 引合計画と引合 調達文書の作成、評価基準の設定、プロポーザルの受理 - 発注先選定 - 契約管理 約業務の理解、契約条件の確認と合意、契約の締結、例外事項の処理、外注と OEM 契約業務の理解、関連法規の理解と遵守

対象スキル項目	関連する知識
情報システム管理	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義技法 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け - システム管理体系 組織と役割の設定、業務フローの策定、業務標準の策定、管理体制の確立 - ユーザ部門との関係管理 ユーザ、経営者の要望把握 - 情報システム計画 システム化戦略の策定、システム化計画の策定 - システム開発 システム開発計画の策定と実施 - 本番システムへの適用 システム移行計画の策定と実施 - 情報サービスの支援 品質管理 - 情報サービスの提供 システム運用 - 情報資源の管理 情報システム資産計画策定と管理 - 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践 - 最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握

コース名 研修コースの内容	アウトソーシングビジネスのプロジェクトマネジメント：アウトソーシングプロジェクトマネジメント実践
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発/アプリケーション開発/システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、「アウトソーシングプロジェクトマネジメント概説」の後続コースとして、アウトソーシングプロジェクトの実践において特に重要となる知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、アウトソーシングビジネスの成長段階とパートナーシップ、PMP(Project Management Profession)認定試験、契約、コスト管理、SLA事例、業務改善事例などの研究による各種考慮点、顧客満足度管理、アプリケーション開発管理型アウトソーシング、更には近年注目を集めている「プログラムマネジメント」に関する法則や特有の手法などを学習する。</p> <p>当コースは、アウトソーシングプロジェクトマネジメント理論を講義形式で確認することに加え、具体的な適用方法、適用事例を中心に実践的なアウトソーシングプロジェクトマネジメントをワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、中規模以上で複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:アウトソーシング)のレベル6を目指す者)
受講前提	「アウトソーシングプロジェクトマネジメント概説」を修了していること。
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 5日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	実践的なアウトソーシングビジネスの知識を活用し、アウトソーシングプロジェクトのプロジェクト責任者として、顧客企業にとって極めて戦略的な意味を持つアウトソーシングプロジェクトを成功裏に実施、運営できる。

対象スキル項目	関連する知識
統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト計画の策定 プロジェクト計画メソッドの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクト計画書の策定 - プロジェクト計画の実施 一般的な管理スキルの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、承認プロセスの把握、進捗管理会議運営、組織の手続きの把握 - 統合変更管理 変更管理、構成管理、プロジェクト進捗評価基準の活用と実践、プロジェクト計画書更新版の策定
スコープマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト開始 プロジェクト憲章の策定、プロジェクトマネージャの選定と任命、制約条件と前提条件の把握 - スコープ計画 スコープ記述書の策定、スコープマネジメント計画書の策定 - スコープ定義 WBSの作成、スコープ記述書更新版の策定 - スコープ検証 - スコープ変更管理 スコープ変更、ベースライン文書の改訂
タイムマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 作業定義 作業の細分化と詳細化、作業項目リストの作成、WBS更新版の作成 - 作業順序設定 PDM(Precedence diagramming method)、ADM(Arrow diagramming method)、Conditional diagramming method、プロジェクトネットワーク図の作成、作業項目リストの作成 - 作業所要時間見積 所要時間見積、作業項目リストの作成 - スケジュール開発と管理 数学的分析(Critical Path Method、PERT等)、所要時間の短縮、シミュレーションの実施、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクトスケジュールの作成、スケジュールマネジメント計画書の作成、スケジュール変更管理

対象スキル項目	関連する知識
コストマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 資源計画 資源計画の検討と策定、代替案の定義 - コスト積算 トップダウンコスト見積の実施、ボトムアップコスト見積の実施、見積ツールの活用と実践、コスト見積方法論の活用と実践 - 予算設定 予算設定ツールと技術の活用と実践、コストベースラインの作成 - コストコントロール コスト変更管理の実施、進捗状況評価基準の把握と実践、EVM(Earned value management)の活用と実践、コストコントロールツールの活用と実践
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用と実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践 - 品質コントロール 監査、コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、フローチャートの活用と実践、傾向分析
組織マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト組織計画 人材業務の実践、組織論の実践 - 要員調達 要員計画の策定、採用業務の実施、ネゴシエーション、調達 - チーム体制化 チーム構成作業の実施、一般的な管理業務の実施、適材配置の実践、チーム育成

対象スキル項目	関連する知識
コミュニケーションマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - コミュニケーション計画 コミュニケーション要件の把握、コミュニケーション技術の活用と実践 - 情報配布 コミュニケーションスキルの活用と実践、情報配布方法論の活用と実践 - 実績報告 進捗検証、予実分析、傾向分析、Earned Value 分析 - プロジェクト完了手続 プロジェクト実績報告、プロジェクト報告書の作成、プロジェクトプレゼンテーションの実施
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスクマネジメント計画策定 - リスク識別 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT 分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - 定性的リスク分析 リスク発生頻度と損害の大きさによる分析、リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分析 - 定量的リスク分析 情報収集技術(インタビュー)の活用と実践、重大性分析、デシジョンツリ分析、シミュレーションの実施 - リスク対応計画 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value分析
調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 調達計画 内製外製の分析、契約形態の選択、調達計画書の作成 - 引合計画と引合 調達文書の作成、評価基準の設定、プロポーザルの受理 - 発注先選定 - 契約管理 契約業務の理解、契約条件の確認と合意、契約の締結、例外事項の処理、外注と OEM 契約業務の理解、関連法規の理解と遵守

対象スキル項目	関連する知識
情報システム管理	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義技法 <ul style="list-style-type: none"> 現行業務分析、新規業務要件の把握、業務要件定義、現行IT環境分析、新規技術要件の把握、技術要件定義、インタビュー技法の活用と実践、要件定義書作成、ニーズの分析と優先順位付け - システム管理体系 <ul style="list-style-type: none"> 組織と役割の設定、業務フローの策定、業務標準の策定、管理体制の確立 - ユーザ部門との関係管理 <ul style="list-style-type: none"> ユーザ、経営者の要望把握 - 情報システム計画 <ul style="list-style-type: none"> システム化戦略の策定、システム化計画の策定 - システム開発 <ul style="list-style-type: none"> システム開発計画の策定と実施 - 本番システムへの適用 <ul style="list-style-type: none"> システム移行計画の策定と実施 - 情報サービスの支援 <ul style="list-style-type: none"> 品質管理 - 情報サービスの提供 <ul style="list-style-type: none"> システム運用 - 情報資源の管理 <ul style="list-style-type: none"> 情報システム資産計画策定と管理 - 技術問題解決手法 <ul style="list-style-type: none"> 技術問題解決手法の活用と実践 - 最新技術動向 <ul style="list-style-type: none"> 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握

コース名 研修コースの内容	アウトソーシングビジネスのプロジェクトマネジメント： アウトソーシングプロジェクトマネジメントのための会計・経営管理概説
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	プロジェクトマネジメント共通 システム開発 / アプリケーション開発 / システムインテグレーション アウトソーシング ネットワークサービス eビジネスソリューション ソフトウェア開発
コース概要	<p>当コースは、アウトソーシングプロジェクトを実施、運営する際に必要となる、企業会計、経営管理に関してより深い知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、時価主義会計、連結会計、キャッシュフロー会計、年金会計、税効果会計、研究開発費とソフトウェア会計等の企業会計と、キャッシュフロー経営、グループ経営、BPR(Business Process Reengineering)、ABC、ABM(Activity Based Costing 、 Activity Based Management)、人材マネジメント、グループ経営管理システム等の経営管理手法などを学習し、会計ビッグバンによる企業経営のパラダイムシフトを理解する</p> <p>当コースは、顧客の経営者層が抱えている課題を理解するための会計制度、経営管理知識をeラーニング形式で学習する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者として、中規模以上で複雑なプロジェクトに関する複数回のプロジェクトマネジメントの経験、実績を有する者(プロジェクトマネジメント(専門分野:アウトソーシング)のレベル6を目指す者)
受講前提	「アウトソーシングプロジェクトマネジメント概説」を修了していること。
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×3日)
研修修了後の スキル修得目標	アウトソーシングプロジェクトの持つ経営管理上の意義と効果を十分理解し、アウトソーシングプロジェクトのプロジェクト責任者として、プロジェクトの継続的な実施、運営に役立てることができる。

対象スキル項目	関連する知識
情報システム管理	<ul style="list-style-type: none"> - 企業会計 時価主義会計、連結会計、キャッシュフロー会計、年金会計、税効果会計、研究開発費とソフトウェア会計 - 企業経営 キャッシュフロー経営、グループ経営とBPR(Business Process Reengineering)、ABC(Activity Based Costing)、ABM(Activity Based Management)、人材マネジメント、グループ経営管理システム